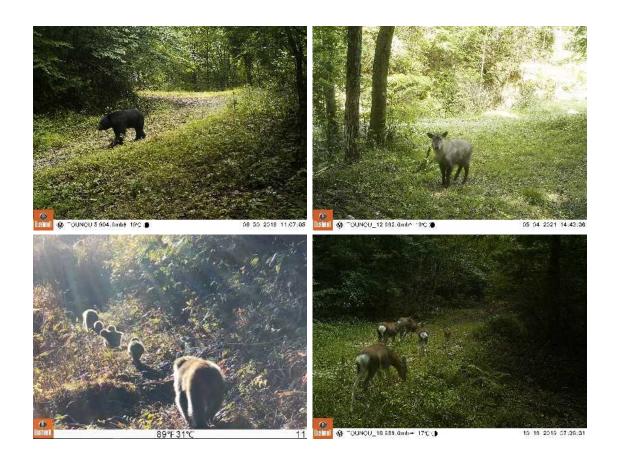
野生生物モニタリング調査の一考察

~ ニホンジカセンサーカメラ6年間の取りまとめ ~



令和4年1月6日 林野庁 中部森林管理局 東濃森林管理署

0.9 西南西

0.9 南西

1.1 南西

0.9 南西

1南西

1.1 南西

東濃署におけるニホンジカモニタリング調査の一考察

(2016年~2021年のカメラデータの取り纏め結果)

〇 内容

6年間のセンサーカメラによる野生動物モニタリング調査について、これまでの膨大なデータが集積されてき たことから、これを集計・分析することにより、あらたな課題や調査手法の見直し、レベルアップ(精度の向 上)を図ることを見いだすため。

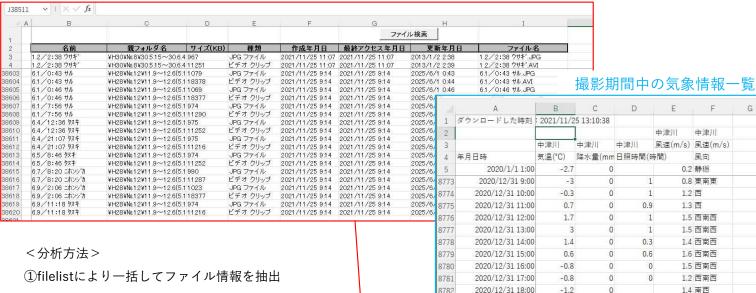
○データの概要

- ・カメラデータの期間:2016年1月2日5:32~2021年10月12日17:02まで(2017年(h29年度)はデータがない)
- 撮影数:撮影全総数は不明。視覚調査済みの38,599回を分析
 - ※署のサーバー容量圧迫のため、データを整理、削除。そのため撮影総数は不明となっている。

○考察の概要

- ・Excelのマクロ機能を活用して、全画像ファイルのファイル情報をワークシートとして読み込み、リスト化し ました(「filelist」と呼称)。そこから撮影時間や気温等の情報別でソートをかけて分析を行い、それぞれの情 報の関連性について考察しました。
- ・調査は撮影数及び撮影頻度を基にしており個体数(生息数)の分析ではない。

抽出した画像ファイルの情報一覧



8782

8783

8784

8785

8786

8787

8788

8789

2020/12/31 19:00

2020/12/31 20:00

2020/12/31 21:00

2020/12/31 22:00

2020/12/31 23:00

2021/1/1 0:00

-1.4

-1.5

-1.3

-1.6

-1.7

0.5

0.5

... 2016データ 2017データ 2018データ 2019データ 2020データ 2021~11月

0

- ②気象庁のHPから過去データをダウンロード
- ③分析の基となる一覧情報を作成
 - ・カメラ設置地点
 - ・年、月、日付、時間、曜日、時間帯、動物種
 - ・気象データファイルと紐付け 気温、降水量、日照時間、風速、風向

分析の基となる一覧表を作成

		1 2001	見火	C IF	770											
J20081	. ~	$: \times \checkmark f_x$														
A	В	D	F	Н	I	J	K	0	Р	R	S	U	W	Х	Y	Z
1																
2	位置	時間	年	月	日付け	時間	曜日		時間帯	撮影動物種	気温	降水量	日照時間	風速	風向	ファイル名
3	No.6	2016/1/2 5:23	2016	1 20	016/1/2	5:23	土曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	-3.2	0.0	0.01	0.2	静穏	1.2/5:23 ニホンシカ.JPG
4	No.6	2016/1/2 6:10	2016	1 20	016/1/2	6:10	土曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	-2.8	0.0	0.01	0.2	静穏	1.2/6:10 ニホンシカ.JPG
5	No.6	2016/1/2 6:18	2016	1 20	016/1/2	6:18	土曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	-2.8	0.0	0.01	0.2	静穏	1.2/6:18 ニホンシカ.JPG
6	No.6	2016/1/2 6:21	2016	1 20	016/1/2	6:21	土曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	-2.8	0.0	0.01	0.2	静穏	1.2/6:21 ニホンシカ.JPG
0053	No.17	2021/6/21 3:29	2021	6 20	021/6/21	3:29	月曜日	朝焼~朝	3時~9時	ウサギ	15.1	0.0	0.01	0.5	東北東	6.21 3:29 ウサギ.JPG
0054	No.1	2021/6/21 4:17	2021	6 20	021/6/21	4:17	月曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	14.3	0.0	0.01	0.7	北北東	6.21 4:17 ニホンジカ.JPG
0055	No.1	2021/6/21 5:02	2021	6 20	021/6/21	5:02	月曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	14.3	0.0	0.00	0.8	南西	6.21 5:02 ニホンジカ.JPG
0056	No.1	2021/6/21 6:32	2021	6 20	021/6/21	6:32	月曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	15.9	0.0	0.70	0.6	西	6.21 6:32 ニホンジカ.JPG
0057	No.3	2021/6/21 12:19	2021	6 20	021/6/21	12:19	月曜日	日中	9時~15時	ニホンジカ	28.1	0.0	1,00	1.3	西北西	6.21 12:19 ニホンジカ.JPG
0058	No.1.5	2021/6/21 17:52	2021	6 20	021/6/21	17:52	月曜日	夕方~夜	15時~21時	カモシカ	26.8	0.0	0.70	1.3	南西	6.21 17:52 カモシカ.JPG
0059	No.15	2021/6/21 19:47	2021	6 20	021/6/21	19:47	月曜日	夕方~夜	15時~21時	イノシシ	23.1	0.0	0.30	1.0	西南西	6.21 19:47 イノシシ.JPG
0060	No.13	2021/6/21 20:34	2021	6 20	021/6/21	20:34	月曜日	夕方~夜	15時~21時	ニホンジカ	21.4	0.0	0.00	0.8	西	6.21 20:34 ニホンジカ.JPG
0061	No.13	2021/6/21 20:40	2021	6 20	021/6/21	20:40	月曜日	夕方~夜	15時~21時	ニホンジカ	21.4	0.0	0.00	0.8	西	6.21 20:40 ニホンジカ.JPG
0062	No.16	2021/6/22 4:51	2021	6 20	021/6/22	4:51	火曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	18.1	0.0	0.01	0.1	静穏	6.22 4:51 ニホンジカ.JPG
0063	No.15	2021/6/22 5:55	2021	6 20	021/6/22	5:55	火曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	18.0	0.0	0.00	0.9	北東	6.22 5:55 ニホンジカ.JPG
0064	No.16	2021/6/23 4:22	2021	6 20	021/6/23	4:22	水曜日	朝焼~朝	3時~9時	ニホンジカ	18.8	0.0	0.01	0.6	北北東	6.23 4:22 ニホンジカ.JPG
0065	No.19	2021/6/25 18:56	2021	6 20	021/6/25	18:56	金曜日	夕方~夜	15時~21時	カモシカ	23.4	0.0	0.10	0.9	西	6.25 18:56 カモシカ.JPG
0066	No.20	2021/6/27 9:49	2021	6 20	021/6/27	9:49	日曜日	日中	9時~15時	ニホンザル	22.9	0.0	0.00	0.4	西	6.27 9:49 ニホンザル.JPG
0067	No.2	2021/10/12 17:02	2021	10 20	21/10/12	17:02	火曜日	夕方~夜	15時~21時	カモシカ	24.0	0.0	0.00	0.4	南西	7.3/4:51 カモシカ.JPG
0068	No.2	2021/10/12 17:02	2021	10 20	21/10/12				15時~21時		24.0	0.0	0.00	0.4	南西	7.5/12:51 カモシカ.JPG

※参考用

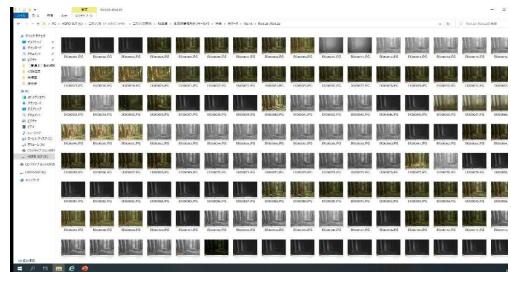
これまでの分析方法

- ①回収した画像データ (元データ)を保存。 目視で画像の中身を確認。
- ②生物(哺乳類)が写っていればファイル名に日時と生物の名称を記載し、編集済みフォルダに抽出、保存。
- ③編集済みフォルダの 画像データを元に調査 表に入力していく。

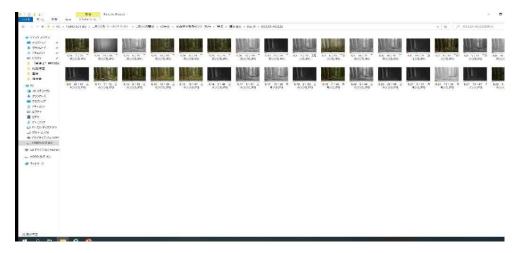
考察

- ・今回の「filelist]を活用することで、調査表への入力の手間を省くことができる。
- ・これまでは個体数を記録してきたが、目視での確認では 雄雌の判別や同一個体の 判別に限界があり、正確性に 欠ける。

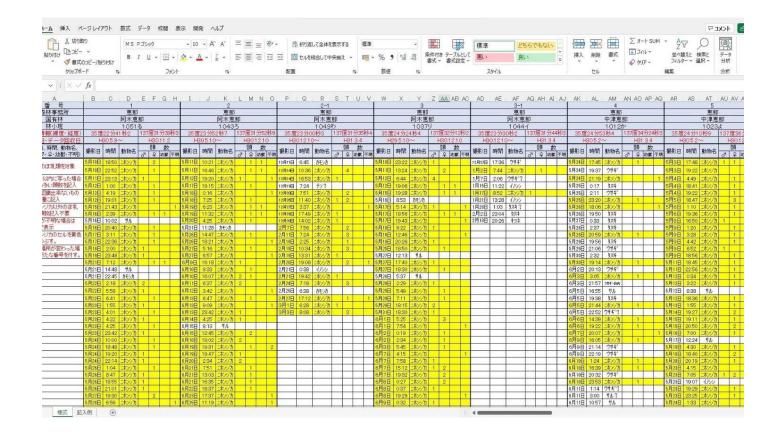
今後は撮影数を元に出現率な どを測っていくほうがよいか...



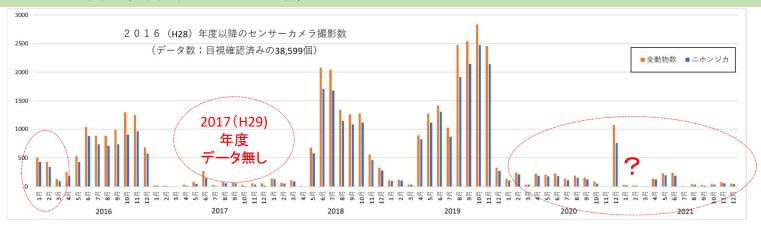






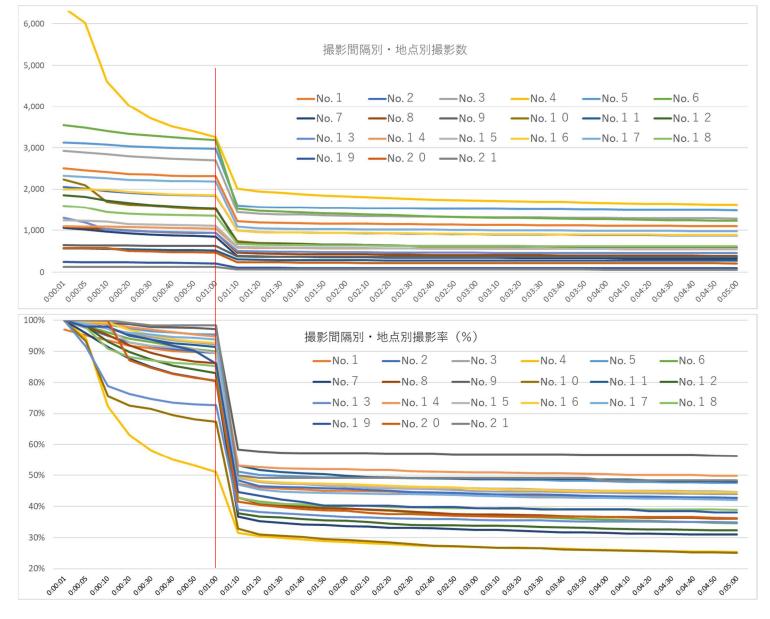


全データの検証(異質な傾向はないか点検)



※ 考察

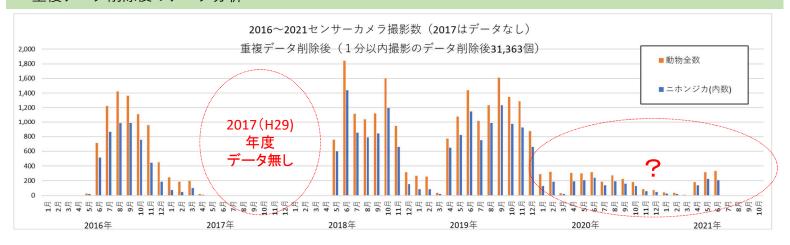
- ・まずは38,599個のデータを撮影日付毎に並び替え、月毎にグラフ化
- ・2020年4月以降の撮影数が著しく減少?。設置位置や方向、調査手法の変更か?、視覚確認の担当異動による主観相違か?
- ・2016年1月や2017年にデータが存在。H28のフォルダに2025年の記録されたものが130個有り。カメラの時計狂い?
- ・静止画の後、動画(AVI、MP4)撮影されることから、同一個体撮影の重複データの処理が必要。 このため、カメラ毎の連続撮影時間幅毎に記録枚数を算出し、変化点を見いだし、削除するデータを考察。



- ・全撮影ファイルの撮影時間差毎の個数を算出。
- ・1分から1分10秒の間に大幅に減少幅が拡大している。主に動画ファイルが減少した。
- ・1分以内では7,236枚削除で残81%、1分10秒では14,546増で削減21,782枚、残41%となる。
- ・今回は、1分以内を1回として判断、1分以内を重複データとしてカウントした。赤線ラインで7,236画像を削除

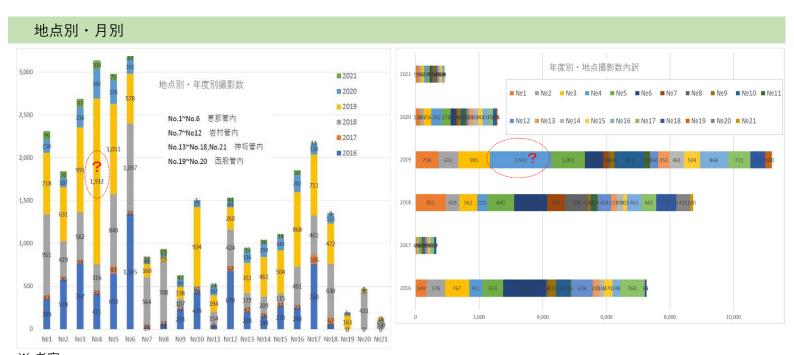
総提影物	連続撮影1	分以内削除	1分10秒以内削除			
小心34以 尔之安人	削除枚数	分析数	削除枚数	分析数		
20,191	5,417	14,774	13,171	1,603		
14,928	485	14,443	484	13,959		
3,461	1,315	2,146	891	1,255		
19	19	0				
38,599	7,236	31,363	14,546	16,817		
	14,928 3,461 19	総撮影数 20,191 5,417 14,928 485 3,461 1,315 19 19	削除枚数 分析数 20,191 5,417 14,774 14,928 485 14,443 3,461 1,315 2,146 19 19 0	総撮影数 削除枚数 分析数 削除枚数 20,191 5,417 14,774 13,171 14,928 485 14,443 484 3,461 1,315 2,146 891 19 19 0		

重複データ削除後のデータ分析



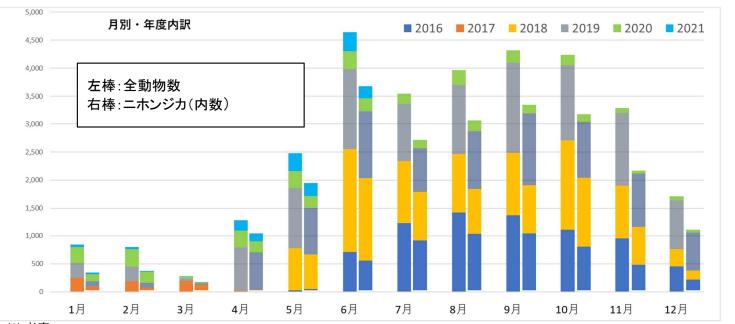
※ 考察

- ・1分以内の情報を削除し、時間情報の変異なものは、フォルダ名に月日となっていたため手修正。31,363個の月毎に再グラフ化
- ·2020年4月以降の撮影数は若干増加したが前年の傾向との差はあまりない。 要検証として、設置位置や方向など調査手法の変更?。担当異動による視覚調査での主観相違か?

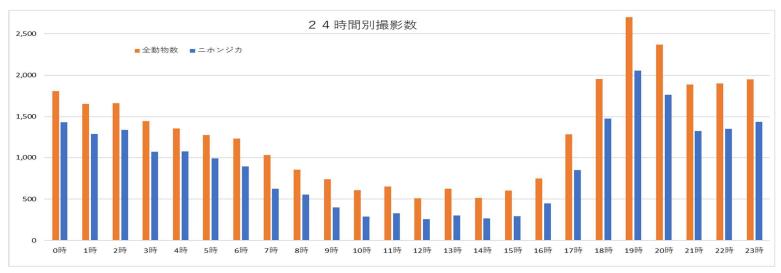


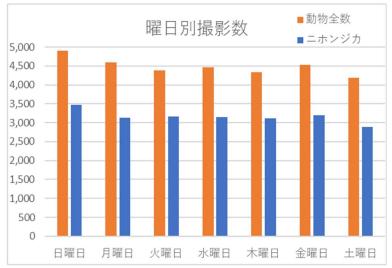
※ 考察

- ・No.4 の2019年のデータ数が多い(左、右グラフの赤丸円内、2477個)の精査。特定個体の繰り返し?居付き個体?
- ・上記と同様、2020年以降の撮影数が著しく少ない。

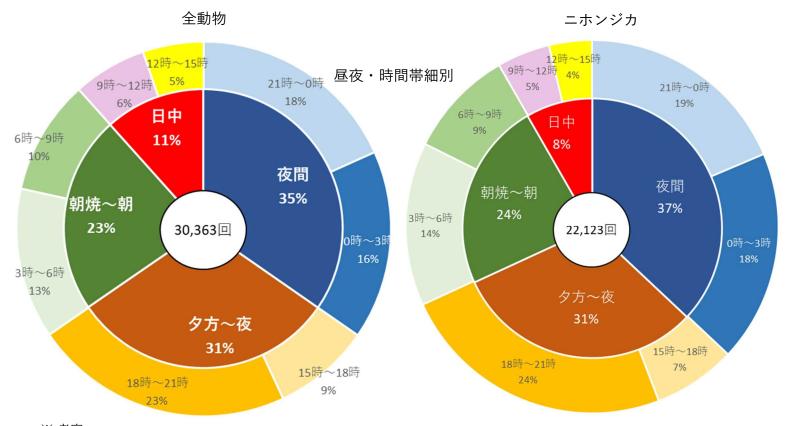


- ・全動物種撮影頻度の割合に応じてニホンジカの撮影頻度はほぼ同じ。
- ・12~1月はカメラ撤去により少ない。(データがあるものがあるが設置したか?要確認)





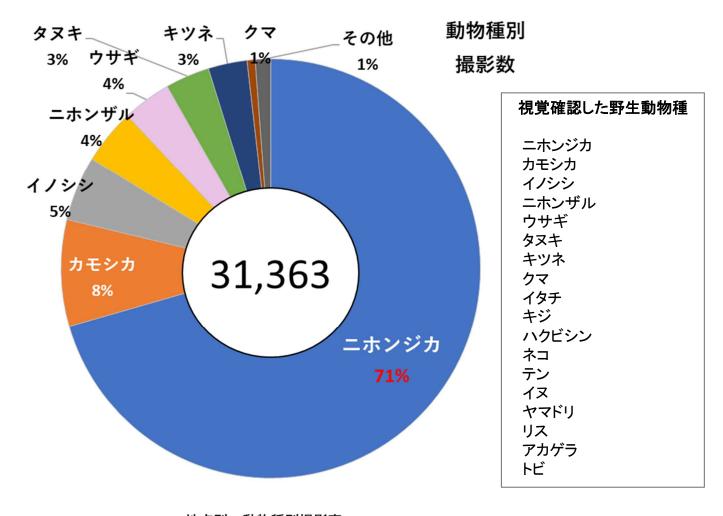


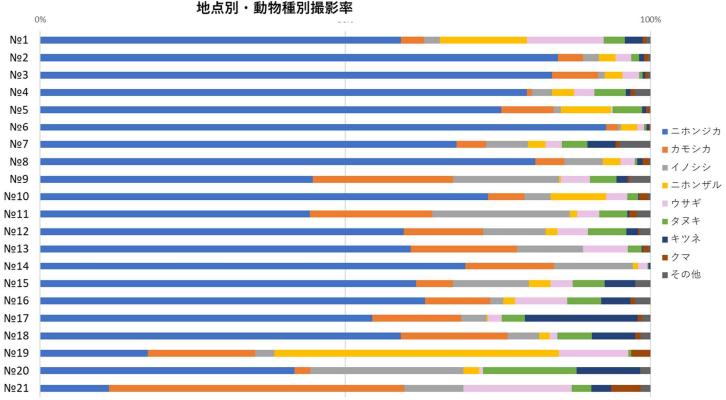


※ 考察

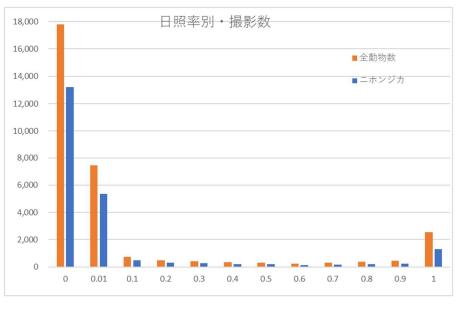
- ・月別、曜日別とも、全動物種の割合に応じてニホンジカの撮影頻度はほぼ同じ。
- ・やや日曜日に撮影数が多く見られる。
- ・夕方18時~早朝にかけての撮影が7割以上。事業者等が山にいない時間帯が活動的。
- ・シカは明け方と夕暮れに活動が活発になる習性があるといわれる。今回の調査では夕暮れの方が比較的活発である。

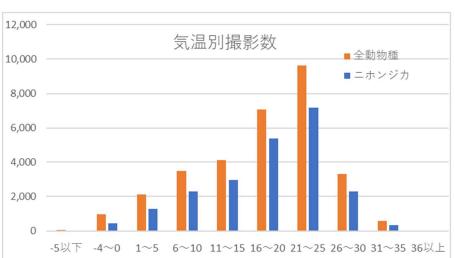
※生活リズムの変化か?

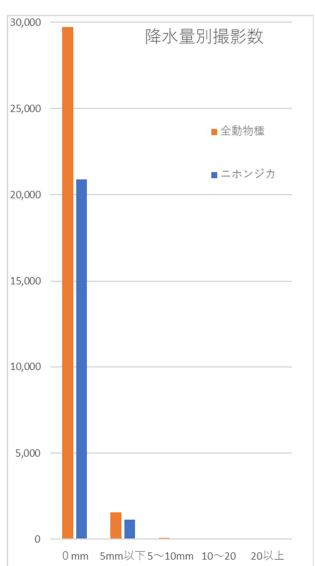


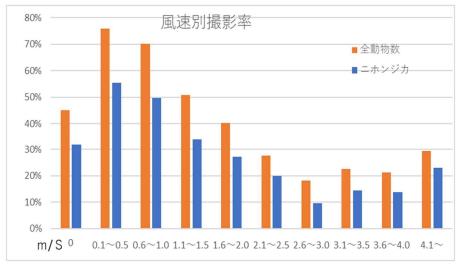


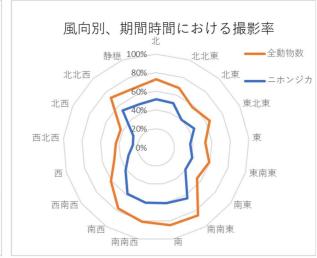
- ・ニホンジカの撮影頻度は7割以上
- ·No.19地点にニホンザルの撮影頻度が多い。
- ・No.21地点は、ニホンジカよりもカモシカの頻度が高い。
- ・ニホンジカの撮影頻度が最も高いのは、No.6、中津恵那国有林1007/林小班、阿木恵那1050へ、阿木恵那1044ろ注:一部カメラは設置場所を移動しているものがある。



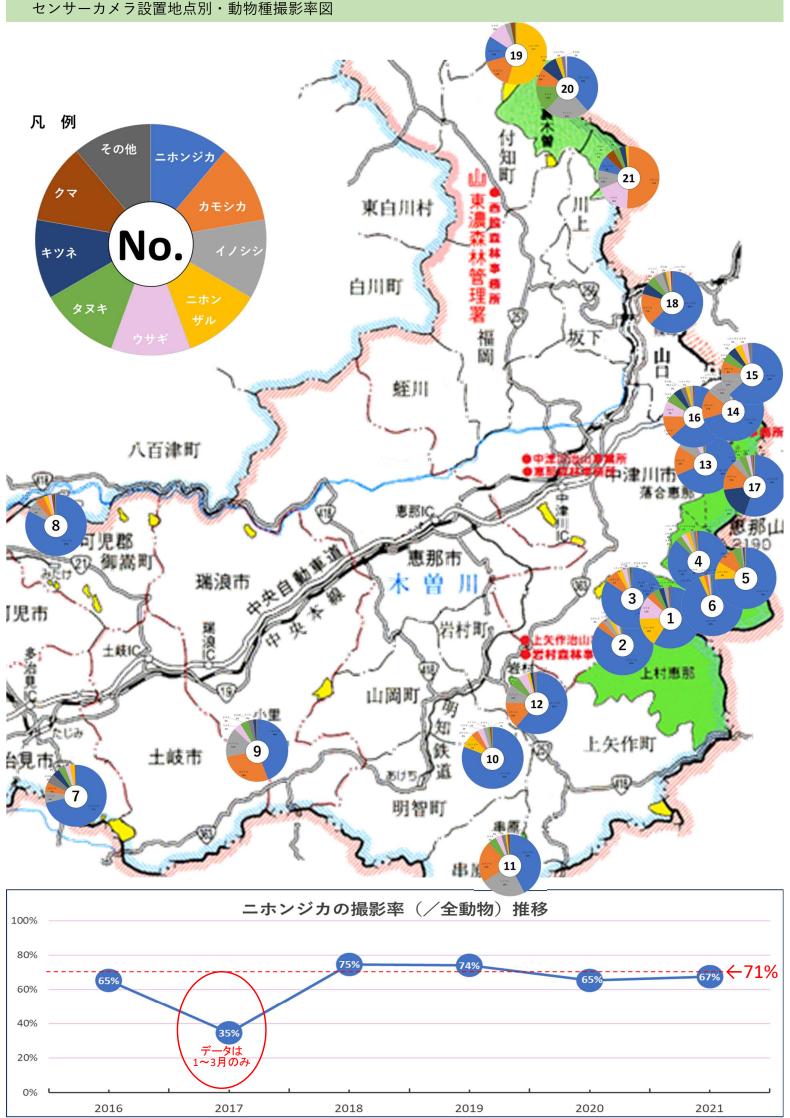








- ・夕方から夜間の撮影が多いため日照時間は0.01以下の撮影数が多い。 日中の日照1.0でも出現 ←地点別分析すると?(カメラ設置場所の特性がわかるかも)
- ・気温は16°C~25°Cにかけて多い、30°C以上は僅少。降水量はない時間の撮影がほとんどを占めている。
- ・風速、風向は特段の傾向は見当たらないか。



○センサーカメラの設置について

- ・生息推移を把握するためには、なるべく毎年同じ位置に同じ方角に設定する。
- ・同一個体の連続撮影を少なくするためには、被写体側はなるべく広場などは避ける。
- ・被写体側の近接に可能な限り枝葉や笹葉が映り込まないようにする。風の影響により不要画像の発生防止のため。
- ・日付の設定がリセットされる故障が度々起こる。雨や湿気などで水分が機器内部に侵入しているのが原因か?

→※対策の検討

○熱感知センサーについて

- ・設置しているセンサーカメラは熱感知センサーで撮影を行っており、熱を持った人や動物などがセンサー範囲内を動いたとき、 温度の変化を感知して作動します。そのため、風の吹き抜けによる温度変化、日照により熱を持った葉っぱの揺れなどにより 誤作動してしまう。
- →多少の誤作動は仕方がない(風の影響など)。上記のようになるべく広場等は避け、日陰など温度変化の少ない環境に設置する。

○データ分析(視覚確認)について

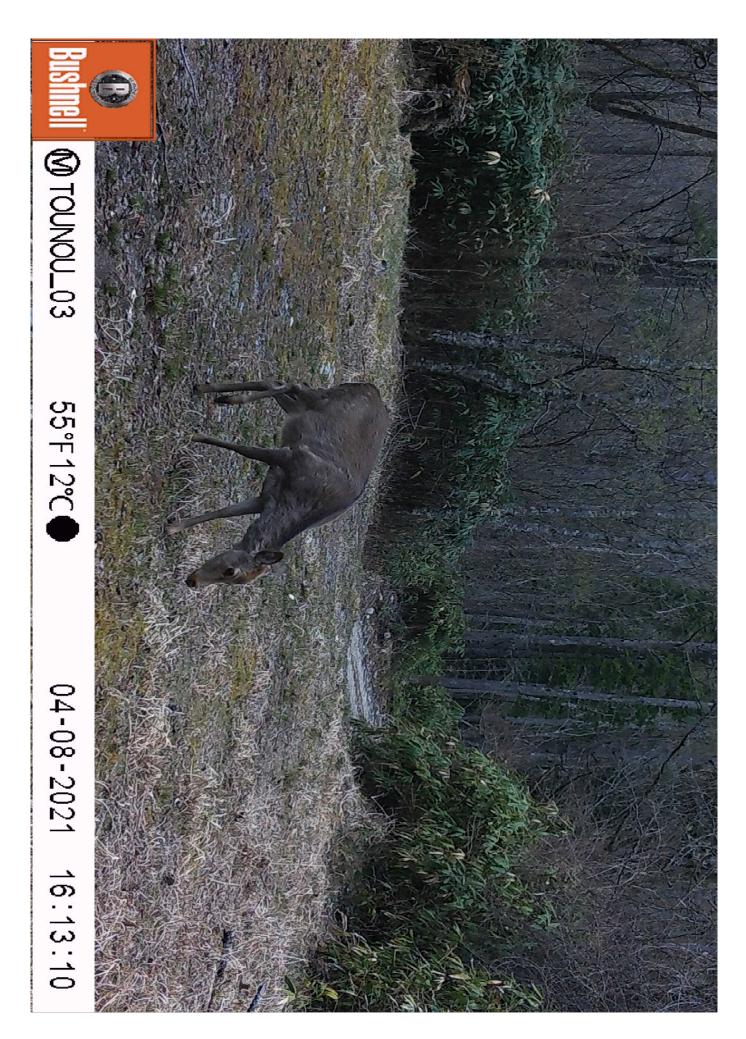
- ・撮影率を算出するため、全データをfilelistにより一括してファイル情報を抽出しておく。後に撮影誤差率を算出するため。 これにより、カメラの設置場所の特性(枝葉、広・狭視界)原因、適正化、統一化を図る判断のもとに。
- ・視覚確認した情報は、ファイル名に追記(性別、親、子別、雄シカは角枝数)
- →これまでは調査表に性別などの情報を入力していたが、ファイル名に直接記載する。
- ・視覚確認にあたっては、特に同一個体の確認方法の統一が必要。

○データ管理について

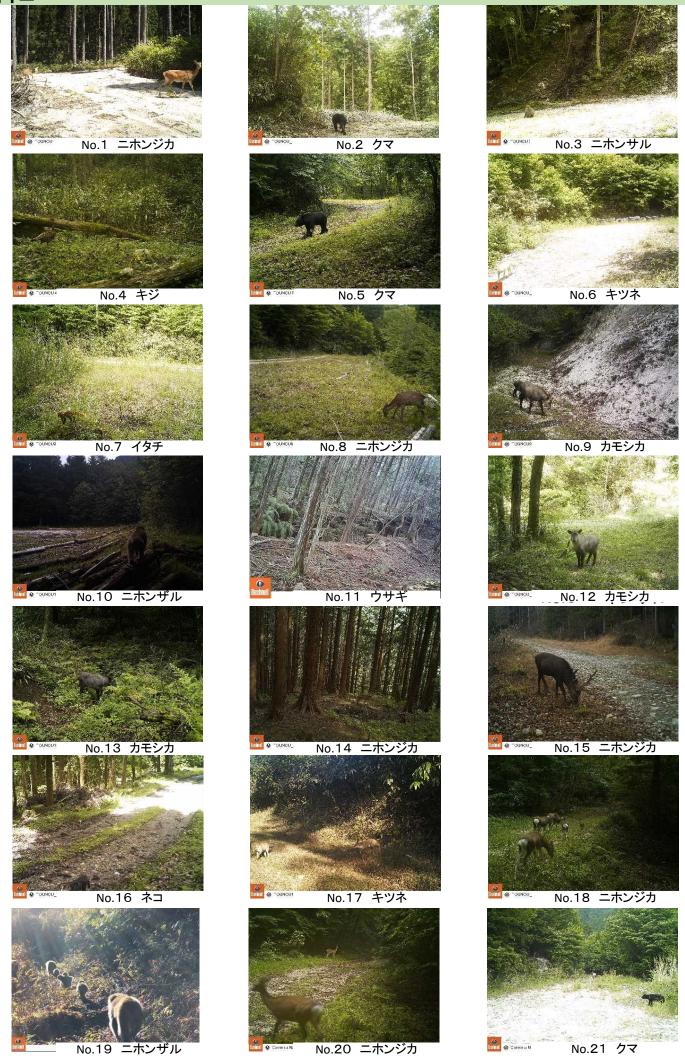
- ・撮影したデータを署のサーバー内で保管すると容量圧迫を招くため、外付けHDDなどの記憶媒体に保管する。
- ・撮影方法、記録方法の統一。
- ・担当異動に際してのマニュアル作成の必要性。
- ○担当や現場の職員に限らず、署としての取り組みの必要性。

今後の取り組み、提案

- ○当署におけるニホンジカ対策の今後の取り組み方針案 提言案等
 - ・今回のデータ分析でニホンジカの撮影頻度から今後の増減を予測する
 - ・数値の目標設定して、ニホンジカ被害対策の継続取組 ←例えば目安として、71%を超えた場合は対策を強化するなど
 - ・個体数管理の指標
 - ・重点捕獲時期 (長野県は県ぐるみで3~5月をメスジカ捕獲強化期間と設定している。)
 - ・センサーカメラによるモニタリングの継続の必要性を記載
 - ・同一手法調査マニュアルの作成
 - ・機器の防水対策等の自助開発(設定時間の狂い防止)
 - ・データ保存の管理の徹底
 - ・データ運用の方法(亡失事故防止と、誤操作による情報の質の低下)



資料2 センサーカメラ設置場所主な画像(No.1~No.2 1)



※設置場所は年度や季節で変更しています。上記の場所は一例としてご覧ください。